

西沢ひろふみ市議会レポート



発行所 西沢ひろふみ事務所
〒980-0871仙台市青葉区八幡5-6-1
電話：022-717-6340
ウェブサイト <http://nishi-yan.jp>



ご挨拶

こんにちは。西沢ひろふみでございます。常日頃より私の活動に対しましてご理解を賜り、誠にありがとうございます。昨年は2月に、宮城県後期高齢者医療広域連合議会議長に選任され、その後に開催された2回の定例会において、広域連合の予算・決算等について審議致しました。また、東日本大震災から5年の復興計画期間が終了した5月には、本市の玄関口として今後の本市再生に欠くことのできない重要な拠点である仙台港・仙台空港等の利用促進を図るべく、仙台市議会内に議員連盟を立ち上げ、会長としてその推進に取り組んでおります。この度、平成27年12月議会以降における、この他の活動の一端を市政報告としてまとめました。ご一読の上ご意見等を賜れば幸いに存じます。今後とも変わらぬお力添えを心からお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成29年3月吉日

西沢ひろふみ 拝

仙台の再生に全力投球！

平成27年 第4回定例会

問 仙台港利用促進について、他の海外航路利用コンテナ船の誘致に取り組み、輸出品の拡大を図るなど、仙台港の利用促進に積極的に取り組むべきと考えるが、如何か。

また仙台空港について、仙台の空の玄関口としてふさわしいものとなるよう、本市が本気で取り組んでいく姿勢を示すべきと考えるが、市長に伺う。

答 奥山市長 それぞれの拠点とも、三港の一体化や仙台空港の民営化の動きなど環境が大きく変化する中で、関係する自治体や事業者が同じテーブルに着いて協議をする場も整いつつある状況。この二つの港が東北を代表する国際的な海と空の拠点であることを十分に踏まえつつ、その利用の拡大が東北全体の経済活性化にもつながりますよう、全庁が一体となって十分に努めてまいりたい。

次のページに続く👉



平成27年 第4回定例会

👉前ページから続く

答 まちづくり政策局長 今後、運営事業者が本市を含む地域の関係者を入れた協議の場を設ける予定となっており、そのような場を活用して積極的に意見を述べ、空港の運営に関わってまいり所存である。

問 国所有の大手町裁判官官舎跡地を、青葉城跡の景観を守る観点から本市が入手し、利用する考えはあるか、伺う。

答 都市整備局長 財政状況上、買い受けは困難であり、無償か低廉(ていれん)な価格での自治体への貸与・譲渡は法令で用途が限定されている。今年度内に本市での利用の有無を検討し、結論を出したい。

問 利便性の高い都心部にある市有地を民間活力を導入し公共施設とともに整備することでその有効活用をすべき。

答 財政局長 市場性が高い地域にある土地は、定期借地権の設定等により民間活力を導入しつつ公共施設をあわせて整備する事業手法は非常に有効であると認識する。公共施設整備に際しては、個別具体の案件ごと、地理的な条件、本市が必要とする施設機能、当該エリアのまちづくりの方向性などを総合的に勘案し、この手法の適用の可能性について関係部局と協議してまいりたい。

TOPICS



第1回、八幡・中山・宮町・長町・連坊の5商店会サミットに協力

TOPICS



仙台港の現状について国交省担当者からレクチャーを受ける

平成28年 第3回定例会

問 これからの取り組みとしてさらに起業件数を増加させることが重要なことはもちろんだが、今後に向けた取り組みの方向性について考えがあれば、お示しいたきたい。

答 アシ☆スタ開設以降、起業の相談件数や開業件数は大幅に増加しており、大都市中の新規開業率は福岡市に次いで第2位となるなど、これまでの取り組みを通じて、本市における起業のすそ野の拡大に大きな成果があったと認識している。引き続き開業後の継続・発展に向けたフォローアップの充実に努め、新たな雇用の場の確保や成長の核になるような企業の発掘や育成にも力を注いでまいりたい。

問 仙台市交通指導隊について、隊員の定年等による退任や、なり手の少ないことによる隊員数の減少の課題がある。ご高齢でも年齢に関係なく元気で地域の様々な活動に貢献されている方は沢山いる。本市でも、定年を65歳から70歳に引き上げ、74歳まで延長できるようにすることは、より安全で安心できるまちづくりにつなげる上で必要と考えるが、如何か。

答 毎年、約40名の新規会員を迎えているものの、定年等による退職者数を全て補えない状況にある。従って、定年の延長とその引き上げについても、次の世代の人材確保の観点から、検討してまいります。

次のページに続く👉

平成28年 第3回定例会  前のページから続く

問 札幌市では、心身に不安がある一人暮らしの高齢者や重度の身体障害者が自宅で安心して暮らせるよう、通報と相談の両機能を併せ持つあんしんコール事業を展開している。こういった他都市の取り組みを参考にするとともに、本市で活動するNPOやボランティア団体に関する情報を入手しやすい環境を整備することは必要と思うが、如何か。

答 奥山市長 少子高齢化の進展により、本市においても人口減が見込まれる中、市民誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる社会を作り上げてゆくことが、喫緊の課題であると認識しています。今後とも、高齢者等が必要な情報が得られやすい環境作りに取り組むとともに、こうした活動に携わる皆様の想いを大切にしながら、人と人の結びつきが生み出す力を最大限に引き出し、誰もが豊かに暮らせるまちづくりを推進してまいります。

答 保健福祉局長 本市として、区役所の障害者総合相談窓口や地域に配置した相談支援事業所において、障害のある方や家族からの様々な相談に応じながら、居宅サービスや金銭管理などの支援につなげるとともに、住まいの場としてグループホームの整備を推進してまいりました。今後とも、障害のある方や高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう自立した生活を支える取り組みを進めてまいります。

問 訪問販売の被害防止について他都市の例を参考にしつつ、さらに一步踏み込んだ取り組みを求めるが、如何か。

答 市民局長 仙台市の消費者の安全を守る連携協議会を設置し、関係機関の連携体制を整えたところである。この連携協議会を通じて、地域での見守り体制の強化を進めるとともに、ご紹介頂きました他都市の先駆的な取り組みも参考にしながら、訪問販売による被害防止に一層取り組んでまいります。

平成28年 予算等審査特別委員会

問 宮城野原貨物ヤード移転の進捗状況について伺う。現在地は入線の際、入れ替えが必要な従来型の貨物駅であり、住宅地にも隣接し、近隣への騒音問題や交通渋滞の課題もある中、効率的な発着線荷役方式という方式で対応できる岩切地区に立地する事は、物流を考慮すれば有益な事と考える。宮城野原の貨物駅が防災拠点整備により移転することを、まちづくりの観点から見てどう捉えているか、伺う。

答 宮城野原の広域防災拠点整備に伴う移転候補地である岩切地区での説明会の意見も踏まえ、周辺の道路対策等について関係者間で検討を進めている。岩切地区の地域活性化にもつながる物流拠点の整備を進めるものと考えている。

平成28年 第3回定例会 決算等審査特別委員会

問 海外路線維持拡大に向け、今後は人・物の両面から仙台空港の利用を促進すべき。

答 航空貨物利用促進のセミナーなどを実施している。国・地域に応じた観光客誘致ができるよう進めていきたい。

TOPICS



福岡市西部ガスを委員会視察

TOPICS

平成28年 第4回定例会

問 昨年で47回目をむかえた仙台七夕花火祭を、今後も継続して開催可能にするための支援策について、伺う。

答 昨年も打ち上げ場所変更に伴った経費について、主催者を支援した。最適な打ち上げ場所を選定し、今後も市民に愛される催しとなるよう努めたい。



津市より地域交通確保についてレクチャーを受ける



本会議において質問

平成28年 第4回定例会

問 動物愛護管理法では、繁殖に関する措置、人に迷惑をかける飼育、終生飼育等の様々な責務が生じますが、この責務を飼い主に広く認識させるためにも、猫が好きな方、そうでない方の区別なく、すべての市民に周知、啓発してゆくことが肝要です。本市も新たな飼い猫と飼い主のいない猫の適正飼育ガイドラインの作成に取り組んでおられる今だからこそ、今後は本市のホームページ掲載のみではなく、動物愛護週間前に市政だよりを活用しての広報など、より積極的にこのような市民の啓発に取り組むべきと考えるが、如何か。

答 より多くの市民の皆様は猫の適正飼育にご理解をいただけるよう、市政だよりを活用するとともに、他都市の事例も参考にしながら、効果的な広報、啓発に取り組んでまいります。

問 子育て支援についてお伺いします。子育て家庭への支援策のメニューを一つでも多く増やしていくためには、行政のみで支援策を実施するのではなく、子育てタクシーの他にもっと民間企業などの力をお借りすることによって、よりダイナミックな施策の展開が可能になると考えます。子育て支援の分野で民間の力を活用することについての当局の考えを伺う。

答 民間からの具体的な提案に対しましては、本市としてどのように関与することができるか検討、判断をしながら、子育て支援策のさらなる充実に繋げられるよう努めてまいります。